

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ~検証状況の確認~

提出日:2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

A-1	<p>人間福祉学部の理念</p> <p>人間福祉学部は、永年の伝統を有する「関学社会福祉」の教育研究を継承、発展させつつ、さらにはスポーツ科学・健康科学教育研究及び社会経済研究の資源を活かしながら有機的な連携をより一層強めることにより様々な社会的要請に応えることを目的として設立された。本学部は「人間(humans)」とその生活環境としての「社会(society)」、そしてその両者の交渉関連として「交互作用(transactions)」に関わる諸課題に対してソリューションを提供することによって、質の高い生活と社会の実現(Improving Quality of Human Life and Society)に貢献する人材の輩出を目指す。そのためには、堅実な学問的研究とそれに基づく教育に裏付けられた「実学の府(center of practical science)」であらねばならないと考える。</p> <p style="text-align: right;">(Webサイト)</p>	<p>変更の有無</p> <p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>	
A-2	<p>人間福祉学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)</p> <p>地域社会と国際社会における「人間」とその生活環境としての「社会」、そしてその両者の「交互作用」の中で生じる福祉ニーズをはじめとする様々な生活課題へのソリューションを見出し提供できる専門的人材と、市民として地域及び国際社会の福祉向上に貢献する人材の養成を行うことを目的とする。</p> <p>社会福祉学科 豊かな人間性と人権意識、そして深い知識と優れた実践能力を持つソーシャルワーカー、あるいはソーシャルワーク・マインドを有した市民を養成し、さらにはそれらの養成に従事する人材を育てていくことを教育研究の目的とする。同時に、日本及び国際社会における社会福祉とソーシャルワークの発展と展開に貢献していくこと、そしてそれによって社会福祉学の理論と価値を国内外に広く浸透させていくことも目的として位置づける。</p> <p>社会起業学科 国際化や多様化が進む現代社会において、社会生活を総合的に捉える視点、地域社会の生活問題を連帯して解決できる自治能力、グローバルな水準の思考力や実践能力を身につけた人材の育成を目的とする。持続可能な福祉社会の実現に向けて、ローカル・ガバナンスに視点を置いた総合的アプローチに基づき、多面的・国際的に行動できる「市民力」の形成を目指し、「人間福祉」を核とする優れた社会起業能力の養成を行う。</p> <p>人間科学科 人間をこころ(スピリチュアリティ)と身体を持つ存在として理解し、社会の中で生きる人の問題を見出し、自己と人々の自己実現を支援するための価値・知識・技術の総体について教育することを目的とする。ここから得られた人間理解に基づき、専門職として人の自己実現やその支援に関わる実践家を育成し、さらに一般市民として地域社会の中でこころと身体の健康に貢献できる人材を育成することを重要なミッションとする。</p>	<p>人間福祉学部の目的(Webサイト上)</p> <p>教育課程は、上のような設立理念を実践できる専門家として、あるいは一市民として貢献していく人材の養成のために、豊かな「人への思いやり(compassion)」の涵養、柔軟で包括的な「幅広い視野(comprehensiveness)」の育成、そして様々な社会福祉学的あるいは健康科学的な課題に対してソリューションを導き出す「高度な問題解決能力(competence)」を育むことを意図して組み立てられている。本学の教育課程におけるキーワードは、「人間」と「社会」とその「交互作用」、そして「3つのC」、ということになる。</p> <p>本学部は、「社会福祉学科」、「社会起業学科」及び「人間科学科」からなり、それぞれの学科の特色に合わせた学科専門教育を提供している。</p> <p><社会福祉学科> 「関学社会福祉」の伝統を生かし、ソーシャルワーク・マインドを持って地域社会や国際社会で活躍できる人材を育成する。子ども、高齢者、障害を持つ人々への支援をはじめ、幅広い社会福祉領域を網羅する科目を配し、「理論」と「実践」を両輪で学ぶことで現場に生きる知識と技術を修得できるよう、実践的なカリキュラムを整備している。</p> <p><社会起業学科> 国際化や多様化が進む現代社会では、グローバルな基準で有効な知識や実践力を身につけることが不可欠になる。社会起業という観点で地域社会や国際社会における「人間の福祉」に貢献するための発想力や、柔軟で不屈の実践力を習得できるように、フィールドワークなどの実践的なカリキュラムが準備されており、「社会貢献のための現実に即した学び」が可能となっている。</p> <p><人間科学科> 人間科学科では「こころ」と「身体」の両面から人間を深く理解することを目指す。死生学・スピリチュアリティを中心とした学問分野、身体運動科学・身体パフォーマンスを中心とした学問分野の2領域から統合的に学習する。スポーツ指導・支援者をはじめ身体や心を病む人や悲しみに寄り添えるものとして、人に関わり支援できる人材を育成する。</p>	<p>変更の有無</p> <p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>
	<p>めざす学生像</p> <p>地域社会や国際社会における「人間」とその生活環境としての「社会」、そしてその両者の「交互作用」の中で生じる福祉ニーズをはじめとする様々な生活課題を共感的に理解し、専門的な知識を基にソリューションを見出し具体的に提供できる人材、ならびに市民として地域及び国際社会の福祉向上に貢献する人材を育成することを目的とする。そのために豊かな「人への思いやり(compassion)」、柔軟で包括的な「幅広い視野(comprehensiveness)」、様々な社会福祉学的あるいは健康科学的な課題に対する「高度な問題解決能力(competence)」を持つ学生を育成することを目指す。</p>	<p>変更の有無</p> <p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>	
	<p>学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生にふさわしい基礎力を身につけている 2. 人間と社会とその交互作用に関する基本的知識を身につけている 3. 人間の生活課題を共感的に理解し、幅広い視野から実践的な解決法を考えることができる 4. 社会福祉学科の学生は、社会福祉学に関する専門的知識を身につけ、社会福祉課題の解決に関与し貢献できる 5. 社会起業学科の学生は、社会起業に関する専門的知識を身につけ、グローバルな市民社会の建設に関与し貢献できる 6. 人間科学科の学生は、人間科学に関する専門的知識を身につけ、質の高い生活と社会の実現に貢献できる 	<p>変更の有無</p> <p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>	




2016年度 自己点検・評価【人間福祉学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ~検証状況の確認~

提出日:2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

A-1.「理念」、A-2.「目的」「めざす学生像」「学位授与方針」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「人間福祉学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 人間福祉学部の理念」に沿い、めざす方向性を適切に表現しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「人間福祉学部の目的(Webサイト上)」は、A-2「人間福祉学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「めざす学生像」と「学位授与方針」は、A-2「人間福祉学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「人間福祉学部の目的(Webサイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認6】	目的、「めざす学生像」、「学位授与方針」は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	人間福祉学部教授会(議長:人間福祉学部長)
	検証手続き	教授会において教授会構成員により共有・確認を行う。
	決定・判断時期	毎年4月
	検証エビデンス	人間福祉学部教授会記録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年6月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法	前年度末までに学部内の各種委員会(学部長室委員会、カリキュラム委員会、FD委員会等)で検証・確認を行い、人間福祉学部教授会に上程する。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) </div> <div style="text-align: center;">  <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画:) </div> <div style="text-align: center;">  <input type="checkbox"/>その他 () </div> </div>
	判断根拠	人間福祉学部内各種委員会議事・資料、教授会記録
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()	

2016年度 自己点検・評価【人間福祉学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

A-3

教育研究目標		変更の有無
目標1	(タイトル) 人間福祉学部学生の学力の向上	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	(狙い・内容) 高等学校での学びから大学の学びへの円滑な移行を促進し、学力の底上げを図る。	
目標2	(タイトル) 学問的基盤に根ざした専門的かつ実践的な教育の提供	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	(狙い・内容) 「実学の府」にふさわしい、「3つのC」(「人への思いやり(Compassion)」、「幅広い視野(Comprehensiveness)」、「高度な問題解決能力(Competence)」)を在学中に身に付けられる教育内容を提供する。	
目標3	(タイトル) 「人間福祉」の多様性と可能性を社会に発信し、「人間福祉」という学問領域を社会に浸透させる。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	(狙い・内容) 「人間福祉」に関わる諸領域に強い関心と学ぶ意志を持つ学生を受け入れ、4年間の意欲的な学びを通して身に付けた知識・価値観・学問的及び実践的手法を活用して社会の発展に寄与し得る卒業生を社会に輩出する。「人間福祉」という領域が「福祉の現場」のみならず社会のあらゆる場面で活かすことができる可能性に溢れるものであることを社会に浸透させる。	

A-3.「教育研究目標」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育研究目標」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「教育研究目標」は、教育の質向上に向けた意欲的な内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「教育研究目標」は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	人間福祉学部教授会(議長:人間福祉学部長)
	検証手続き	教授会において、教授会構成員により共有・確認を行う。
	決定・判断時期	毎年6月
	検証エビデンス	人間福祉学部教授会
前回の概票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年6月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法	毎年5月末までに学部内の各種委員会(学部長室委員会、カリキュラム委員会、FD委員会等)で検証・確認を行い、人間福祉学部教授会に上程する。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他() </div>
	判断根拠	人間福祉学部内各種委員会議事・資料、教授会記録
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ~検証状況の確認~

提出日:2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

A-4

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP)	変更の有無
<p>1. 大学生にふさわしい基礎力の修得(キリスト教教育科目/言語教育科目/教養教育科目)</p> <p>(1)キリスト教に関する基礎的知識と社会貢献の態度を身につけている</p> <p>(2)人間と社会に関する教養を身につけている</p> <p>(3)英語で情報を収集し、個人や社会に向けて発信することができる</p> <p>(4)外国語または日本手話に関する基礎的知識を身につけ、基本的なコミュニケーションができる</p> <p>(5)多様な文化に関心をもち、それを理解する態度を身につけている</p> <p>(6)ワープロ、表計算、プレゼンテーション用PCソフトを用いることができる</p> <p>(7)文献、統計、資料などの検索と読解のための基礎力を身につけている</p> <p>(8)レポートを書き、プレゼンテーションをすることができる</p> <p>(9)ディスカッションに参加し、自分の意見を述べることができる</p> <p>2. 社会福祉学に関する専門的知識・技能・態度の修得(社会福祉学専門教育科目)</p> <p>(1)人間と社会とその交互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている</p> <p>(2)日本および世界の社会福祉の歴史と理念を理解している</p> <p>(3)日本の社会福祉および社会保障制度の概要を理解している</p> <p>(4)ソーシャルワークの理論と実践について、基本的な知識、技能及び態度を身につけている</p> <p>(5)専門ソーシャルワークの理論と実践について発展的な知識、技能及び態度を身につけている</p> <p>(6)ソーシャルワークに関連する専門分野について基礎的知識を身につけている</p> <p>(7)社会福祉およびソーシャルワークの視点で生活課題および心理社会的現象をとらえ、関連領域の視点も活用しながら実践方法を考えることができる</p> <p>3. 社会起業に関する専門的知識・技能・態度の修得(社会起業学専門教育科目)</p> <p>(1)人間と社会とその交互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている</p> <p>(2)多様な社会的課題に対する理解と認識を身につけている</p> <p>(3)グローバルな視点を身につけている</p> <p>(4)社会的課題に対するさまざまな取り組みに関する知識と方法について理解している</p> <p>(5)社会起業の理念に関する基本的知識を理解している</p> <p>(6)社会起業の基本的概念を理解している</p> <p>(7)社会起業の実践のための専門的知識、技法、経験及び態度を身につけている</p> <p>(8)社会起業に関連する専門分野についての基礎的知識を身につけている</p> <p>(9)社会起業に関する情報の収集と活用に必要な知識、技法、経験を身につけている。</p> <p>4. 人間科学に関する専門的知識・技能・態度の修得(人間科学科専門教育科目)</p> <p>(1)人間と社会とその交互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている</p> <p>(2)「こころ(スピリチュアリティ)と身体」の両面から人間を理解する態度とそのための専門的知識を身につけている</p> <p>(3)人間のライフコースの各段階(乳・幼児、少年期、青年期、成人期、壮年期、高齢期)における課題や理論について「こころ(スピリチュアリティ)と身体」の両面から理解している</p> <p>(4)人間の生き方やいのちについて、広い視野から理解している</p> <p>(5)こころ(スピリチュアリティ)についての専門的知識と援助技術を身につけている</p> <p>(6)身体に関わる科学的専門知識と技術を身につけている</p> <p>5. 学科の研究課題に関する研究実施能力の修得(研究演習・卒業研究)</p> <p>(1)学科の研究課題に関して、資料を収集し、実験、測定、調査、実践を行い、分析する能力を身につけている</p> <p>(2)学科の研究課題に関して、レポートまたは論文が書ける</p> <p>6. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得(自由選択科目)</p> <p>(1)総合教育科目・専門教育科目・全学科科目・他学部科目の中から自己の専門性と関連する科目を見つけて自ら学びを計画できる</p> <p>(2)総合教育科目・専門教育科目・全学科科目・他学部科目を活用して自分の専門性を発展させることができる</p>	<p><input type="checkbox"/>有り</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>

2016年度 自己点検・評価【人間福祉学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ~検証状況の確認~

提出日:2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄	
【確認1】	教育課程の編成・実施方針は、A-2「めざす学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
【確認2】	教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
【確認3】	教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
【確認4】	学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
【確認5】	教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	人間福祉学部教授会(議長:人間福祉学部長)	
	検証手続き	教授会において教授会構成員により共有・確認を行う。	
	決定・判断時期	毎年4月	
	検証エビデンス	人間福祉学部教授会記録	
前回の概票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年6月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)		
検証プロセス	検証方法	前年度末までにカリキュラム委員会で検証・確認を行い、人間福祉学部教授会上に上程する。	
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。	
		<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 ()
		判断根拠	カリキュラム委員会議事・資料、人間福祉学部教授会記録
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()		

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

A-5

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー;AP)	変更の有無
<p>【関西学院大学(学士課程)】</p> <p>I. 関西学院大学アドミッション・ポリシー</p> <p>世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。</p> <p>関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。</p> <p>そのために、これまで培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多面的に評価することを基本的な方針としています。</p> <p>II. 各学部のアドミッション・ポリシー</p> <p>(略)</p> <p>人間福祉学部アドミッション・ポリシー</p> <p>人間福祉学部では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指します。そのための基本理念として「3つのC」、すなわち「人への思いやり(Compassion)」、「幅広い視野(Comprehensiveness)」、「高度な問題解決能力(Competence)」をすべての学科に共通するキー・コンセプトとして位置づけています。</p> <p>一般選抜入試ではこの理念や教育プログラムにふさわしい生徒を確保するために、「高校において基本とするような科目全体について一定の学力を持っているか、特に言語的能力があり理解力や論述力に優れているか、あるいは特に数理的な能力に優れているか」との観点から試験を実施します。</p> <p>なお、本学部の入学にあたって、社会福祉学科は、「社会福祉にかかわる分野での職業選択を希望しているかその分野に理解があること」が、社会起業学科は、「社会起業に関心があり、国内外での社会貢献活動をめざしているかそのような分野に理解があること」が、人間科学科は、「死生学・生命倫理学・悲嘆学などのこころ(スピリチュアリティ)に関する学問に関心があるか、身体(スポーツ・健康)に関連する分野に関心があり、それぞれの分野での職業選択を希望しているかそれらの分野に理解があること」が求められます。</p> <p>以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。</p> <p>(略)</p> <p>III. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー</p> <p>1. 一般選抜入学試験</p> <p>一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。</p> <p>一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。</p> <p>全学日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述型」による入学試験も実施しています。</p> <p>学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」に記述式を探り入れ必須とし、「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部では「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。</p> <p>理系入学試験においては全学日程・学部個別日程ともに、本学で学ぶために必要な「英語」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。</p> <p>一般入学試験開学独自方式日程は、英語・数学科型、関学英語併用型、関学数学併用型の3方式を実施しています。英語・数学科型は、関西学院大学独自の「英語」と「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。関学英語併用型・関学数学併用型は、関西学院大学独自の「英語」または「数学」に、大学入試センター試験の教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。</p> <p>大学入試センター試験を利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプを受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入試センター試験で実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行います。1月出願においては、文系学部が「英語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施しています。理工学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え科目数を設定し、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。3月出願においては、文系学部が「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。</p> <p>また、大学入試センター試験を利用する入学試験(1月出願 英語検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入試センター試験の教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。</p> <p>2. グローバル入学試験</p> <p>グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業における国際・プログラムに積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に5つのカテゴリーで実施する入学試験です。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>有り <input type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日：2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

国際貢献活動を志す者のための入学試験

国際貢献活動を志す入学試験は、関西学院大学が先駆として実施している学生の国際社会貢献活動プログラムに参加することを志す者で、秀でた英語コミュニケーション能力を有し、国際的課題に関し興味を持ち課題解決のための提案を行い、実践しようとする意欲を持つ者を対象とした入学試験です。英語検定試験においてCEFR B2以上を有する生徒、課題研究や模擬国連等に取り組み知識・技能、思考力・判断力・表現力を有し主体性・多様性・協働性を高めた課題解決能力を有する生徒を対象に出願資格を設定し評価を行っています。一次審査においてはこれらの実績や成果と、提出された志望理由書等の書類と合わせた書類審査と口頭試問・適性面接審査により評価を行います。口頭試問では英語によるプレゼンテーションと面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力を評価します。適性面接審査においては、発展途上国でのプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを面接を通じて評価しています。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験

英語能力、国際経験を有する者を対象とした入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、もしくは国際交流体験による異文化社会における経験を有する者で、国際的課題に関し興味をもち課題解決のための提案に意欲を有する者を対象とした入学試験です。出願資格として、英語検定試験において(CEFR B1程度以上)を有する生徒、海外における留学経験を有する生徒、模擬国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、英語弁論大会、英語エッセイコンテスト等において入賞した経験を持つ英語コミュニケーション能力を有する生徒を対象に設定し、調査書など提出された書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行っています。また、英語を題材とした論述筆記試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

インターナショナル・バカロレア入学試験

インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身につけることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフルディプロマを取得済みの者でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込でB PREDICTED SCOREが出願時に32ポイント以上であるものは英語論述審査が免除となります。また日本の一条校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

グローバルキャリアを志す者のための入学試験(英語エッセイ方式)

グローバルキャリアを志す者のための入学試験は関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)もしくは総合政策学部独自のカリキュラムである(グローバルキャリア・プログラム)において、国際社会で活躍することを志し、英語コミュニケーション能力をもつ者を対象とした入学試験です。国際社会で活躍する能力を身につけることをめざし、現代社会で話題となっている様々なニュース、トピックに対して、自身の知識や考えを英語で伝えることのできる生徒を対象に実施します。一次審査においては筆記審査を行い、現代社会で話題となっているトピック4題のうち、2題を選択し、それぞれ英語300語程度のエッセイを書いてもらいます。また自分の書いたエッセイに適切な英語のタイトルをつけてもらいます。トピックはいずれも英語で書かれており、それらに関する情報や資料は掲載されていません。そのトピックについての知識、考え方も評価の対象とします。新聞などで社会の動きを知っていることも問われます。二次審査においては、個人面接を行い学ぶ意欲や人間性を評価し書類審査と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験は国際的に活躍する科学者や技術者となることを志し、自然科学に関する科目について一定の学力を有し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、インターナショナル・バカロレア資格を有する者、高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験を有する者もしくは自然科学分野における特記すべき国際交流経験を有する者、国際科学技術コンテストに出場した経験を有する者を出願資格として設定し調査書等提出された書類とあわせて「主体性」を中心に書類審査を行います。筆記審査は英語、数学、理科(物理・化学・生物のうち1科目選択)により行います。これらの教科・科目における基本的な学力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果とあわせて第一次審査を行います。面接審査では志望する学科の学びに関する口頭試問や、学ぶ意欲、人間性を評価し、一次審査の結果と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、推薦書、志望理由書等の提出書類による書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

院内推薦入学

1) 関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2) 関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

協定校推薦入学

1)キリスト教学校校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2)グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

3)グローバル+キリスト教校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるためだけでなく、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒を高等学校長の責任に基づき推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

(略)

人間福祉学部

関西学院大学人間福祉学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性豊かな生徒を求め、本学の建学の精神に基づき、将来性ある人物を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

(略)

4. 公募制推薦入学試験

1)スーパーグローバルハイスクール・教育連携校対象公募推薦入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。

2014年度よりスタートした文部科学省スーパーグローバルハイスクール事業は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付けることを重視し、課題研究と高大連携を二本の柱として教育プログラムの開発を目指しています。

このスーパーグローバルハイスクールや本学が教育連携を行う高等学校において、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーションを行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

2)スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験

(スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験)

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。また関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎知識・技能と柔軟な思考力を有しその能力を高い倫理観のもとで発揮しうる、課題発見・解決能力に優れ創造性と未知に挑戦する気概に溢れた人材の育成を目指しています。

文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業の趣旨は、高等学校及び中高一貫教育校における先進的な理数教育を通じ、生徒の科学知識・技能と科学的思考力・判断力を高めることにより将来の国際的な科学技術系人材の育成を図ることとなっています。

スーパーサイエンスハイスクール課題研究等を通じて高められた科学的な能力と強い勉学意欲を有する生徒を本推薦入学試験によって求め、その能力を関西学院大学理工学部の教育によりさらに向上させ、将来国際的に活躍しうる科学技術系人材に育成することを目的としスーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において面接を中心にしながら工夫をこらした審査を行い、課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

(略)

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

5. AO入学試験

関西学院大学のスクールモットーは「Mastery for Service(奉仕のための練達)」。これは、第4代院長C.J.L.ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。

本学が目指す全人教育は、専門知識の修得だけでなく、その専門知識を社会の善として活用し人類の幸福に資する知識とするための教育です。そのためには、知育教育だけでなく、スポーツや芸術などの情操教育や社会貢献活動などが大きな役割を果たします。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。

AO入学試験は、従来の教科科目の筆記試験だけでは測ることができない多様な能力や、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性、あるいは将来性・可能性などを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の観点から多面的かつ積極的に評価する制度です。本学のAO入学試験は、各学部が独自のアドミッション・ポリシーを掲げてそれぞれの審査方法で選考する方式であり、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、各学部が定める受験資格を満たしていれば、自分の意志で出願できる自己推薦型です。

(略)

人間福祉学部

人間福祉学部は、関西学院大学のなかで伝統のある「福祉」の分野をさらに進化させ、「人間そのもの」そして「その生活環境としての社会」について理解を深め、よりよい社会の実現をめざして学ぶ学際的分野をテーマとする実学志向の学部です。

社会福祉学科では、社会的支援の必要な人の自立や自己実現の援助、福祉に関する政策や現実を学び、未来の福祉を担うソーシャルワーカーとしてリーダーシップを発揮できる人材、社会起業学科では、国際的な視点とコミュニケーション能力を養い、地域社会や国際社会に貢献できる行動力と知識を身につけ、社会起業とともに企業、自治体、NPO・NGO、国際機関などで社会のあり方を提案できる人材、人間科学科では、人間を「こころ(スピリチュアリティ)」と「身体」の両面からとらえ、「こころ」や「身体」を病む人や悲しみの中にある人に寄り添い、人々のQOL(いのちの質・生活の質)を支える人材を育成します。

AO入試では、基礎的な学力に加えて、社会貢献活動、文化・芸術活動の実績、体験・経験、創造力、能力・資格、リーダーシップなどで特色を持つ者、豊かな人間性と学ぶ意欲を持つ者を積極的に受け入れます。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

(略)

6. 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しながらも、日本の大学入試制度に対応できないために、正当に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性で評価されています。

この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多角的入試」の一環として行っています。諸外国で勉強してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。

筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接試験において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。

7. 国連難民高等弁務官駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験

「難民を対象とする推薦入学制度」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づき「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えたとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所との推薦に基づき、面接を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

8. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

関西学院大学スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接審査を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

(略)

2016年度 自己点検・評価【人間福祉学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	入試委員会(議長:学長)
	検証手続き	教授会での審議を経て、入試委員会で承認する。
	決定・判断時期	随時
	検証エビデンス	入試委員会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法	入試制度検討委員会等で、アドミッション・ポリシーを十分に考慮の上、各入試の募集定員の原案を作成し、教授会上に上程する。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 ()
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ~検証状況の確認~

提出日:2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

A-6

学生支援に関する方針		変更の有無
	多様な学生に対する支援	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
修学支援	<ol style="list-style-type: none"> アカデミックアドバイザー制度 アカデミックアドバイザーを任命し、同アドバイザーが事務職員と協働で、定めた期間内に1年生及び2年生の成績不振学生への個別指導(個別相談による学修指導及びその他これに付随する指導)を行う。 キャンパスライフアドバイザー制度 学生が演習(基礎演習、研究演習)に所属しない期間の学生生活に関わる相談窓口として、キャンパスライフアドバイザーを配置する。アドバイザーは当該学生の基礎演習担当教員とする。 要配慮学生への支援 毎学期初めに障害や疾病等のため授業中に配慮が必要な学生を把握し、配慮の内容について当該学生・教員・事務局間でコンセンサスを取る。それに基づき、各授業担当者に配慮依頼文書を渡すとともに、教授会でも情報共有を行う。定期試験においても必要に応じて適切な配慮を講じる。また、適宜総合支援センターと連携を取る。 実践教育支援室の設置 実習、フィールドワーク、インターンシップ等の実習プログラムに参加する学生への支援組織として、実践教育支援室を設置している。経験豊富な専門スタッフ(人間福祉実習助手)が常駐し、各プログラムの事前準備や心構え、実施中の支援、事後の振り返り等をサポートするとともに、施設・機関とのコーディネートを行い、現場の指導者、本学担当教員、学生の3者の連携に注力し、学生の修学支援を行う。 奨学金 「荒川義子奨学金規程」により、社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験受験資格取得に必要な実習科目を履修する学生に対して経済的支援を行う。また、「人間福祉学部海外語学研修奨学金規程」により、社会起業学科が実施する海外語学研修(英語短期留学)に参加する学生のうち要件を満たす者に対して奨学金を支給する。 	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
生活支援	<ol style="list-style-type: none"> キャンパスライフアドバイザー制度 学生が演習(基礎演習、研究演習)に所属しない期間の学生生活全般に関わる相談窓口として、キャンパスライフアドバイザーを配置する。アドバイザーは当該学生の基礎演習担当教員とする。 要配慮学生への支援 毎学期初めに障害や疾病等のため授業中に配慮が必要な学生の把握に努め、教授会で共有を行う。授業中の配慮を各担当者に依頼するとともに、学生生活の部分については、総合支援センターと綿密な連携を取る。 	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
進路支援	実践教育支援室が社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指導(サポート)や、就職(福祉職)に関わる情報提供を行う。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

2016年度 自己点検・評価【人間福祉学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート
 ~検証状況の確認~

提出日:2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

A-6. 学生支援に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。 (下記のことが明らかであることに留意する。) <修学支援> ・留年者及び休・退学者の状況把握と対処 ・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施 ・障がい学生に対する修学支援の実施 ・奨学金等の経済的支援の実施 <生活支援> ・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内 ・各種ハラスメント防止に向けた取り組み	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	人間福祉学部教授会(議長:人間福祉学部長)
	検証手続き	規程等の趣旨や種々の背景を考慮の上、教授会で審議・承認または報告・確認を行う。
	決定・判断時期	年1回
	検証エビデンス	人間福祉学部教授会記録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年6月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法	学部内各種委員会(学部長室委員会、障害学生支援委員会、カリキュラム委員会等)で検証を行う。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div>
	判断根拠	人間福祉学部教授会記録
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()	

2016年度 自己点検・評価【人間福祉学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

A-7

教員像		変更の有無
・学生の志を受けとめ、その成長を喜びとして、それぞれ学生が自らの潜在能力を可能な限り開花できるよう、真摯に教育に取り組む姿勢を持つ。 ・専門分野においては、自らの研究課題に向き合い、誠実に継続的に探究し、その成果を広く発信して社会に貢献できるような高い研究能力を持つ。 ・組織の発展、継続のために、自らの持つ力を活用し、また多くの教職員と共に協働・連携して課題に取り組む姿勢を持つ。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。

無しの場合どのように設定するか？	責任主体・組織	
	設定方法	
	設定見込み時期	

教員組織の編制方針		変更の有無
人間福祉学部の理念・目的、人材養成に関する目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに照らして、適切な専門分野・経験等を持つ教員を、人数・年齢構成・男女比等の観点から、職位・雇用条件に鑑みて、適切に配置するための手続きを明確化、透明化する。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。

A-7. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認

		チェック欄
【確認1】	教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	人間福祉学部教授会(議長:人間福祉学部長)
	検証手続き	(採用人事の場合は審査委員会の議を経て)人間福祉学部教授会で決定する。
	決定・判断時期	人事案件の発生時
	検証エビデンス	人間福祉学部教授会記録

前回の概票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年6月)	<input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
-----------------------	--	--

検証プロセス	検証方法	人事構想委員会、審査委員会で厳正な検討・審査を行う。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	人間福祉学部教授会及び審査報告書

- 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。)
- 今後見直す予定である。(見直し計画:)
- その他 ()

周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()
---------	---

2016 年度 自己点検・評価【人間福祉学部】

A票

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

※評価専門委員会・第三者評価結果 2017年1月27日公示

- ・ 全体として適切な自己評価がなされています。
- ・ 多様な学生に対する支援、特に要配慮学生への支援については、修学支援及び生活支援の両面において体系的になされている点は、高く評価できると思われれます。なお、「障害」という表記は、大学の表記にあわせて、「障がい」と記載することが望まれます。
- ・ 学部の理念に関して、当然の前提となっていると思いますが、「研究科の理念」において叙述されているように（関西学院の建学の精神であるキリスト教主義教育とスクールモットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」を基本にして）、明記されることが望まれます。(A)
- ・ DPIについて、「1. 大学生にふさわしい基礎力」とありますが、「ふさわしい基礎力」とは具体的にどのような能力を指しているのかDPの記述だけでは不明瞭なように思います。おそらく具体的な能力はCPIに記述されているのだと思いますが、学生が身に付けるべき能力に関する記述がDPとCPIに重複しており、整理が必要ではないでしょうか。
- ・ CPIについてはカリキュラム編成や学修方法、学修成果の評価の在り方等の記述を充実させることが望まれます。(C)
- ・ DP・CPIについて、先般の中央教育審議会から出されたガイドラインに示されたポイント等を参考に、書かれるべき内容が盛り込まれているか再度確認することが望まれます。(F)
- ・ 推薦入試で實際上全員合格の場合と選抜する場合とでは、「評価」の意味が異なるので一律的な「多面的・多角的に評価します」といった表現は再検討した方が良いかも分かりません。(G)
- ・ 入学者受入れの方針において学力の3要素が触れられていますが、具体的にどういった学修成果が求められているのかわかりづらいようです。第3期認証評価を見据えて、受験生にわかりやすい表現が期待されます。(H)

2016年度 自己点検・評価【人間福祉学部】

A票変更点
記述シート

<A票変更点記述 シート>

提出日:2017年2月23日

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

【A票変更点記入欄】

項目名	A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)
変更内容とその理由	<変更内容> 別紙参照
	<変更理由> ・2015年度に設定した際に記載漏れのあった入試形態のアドミッション・ポリシーを追記したため ・文体の統一のため
項目名	A-6 学生支援に関する方針 多様な学生に対する支援 修学支援
変更内容とその理由	<変更内容> 5. 奨学金 「荒川義子奨学金規程」により、社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験受験資格取得に必要な実習科目を履修する学生に対して経済的支援を行う。また、「人間福祉学部海外語学研修奨学金規程」により、社会起業学科が実施する海外語学研修(社会起業英語中期留学)に参加する学生のうち要件を満たす者に対して奨学金を支給する。
	<変更理由> 2016年度より、「英語短期留学」を「社会起業英語中期留学」に名称変更したため。

<評価専門委員会・第三者評価結果記入欄>

コメントなし